

機関番号：35403

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520147

研究課題名(和文) 東アジアの「白い木綿布」に関する民族芸術学的研究

研究課題名(英文) A study of ethno arts on "white cloth" in East Asian fields

研究代表者

三村 泰臣 (MIMURA YASUOMI)

広島工業大学・環境学部・教授

研究者番号：60289262

研究成果の概要(和文)：日本民間神楽のうち中国地方の民間神楽を中心に「白い木綿布」を使用する神楽を悉皆調査した。その結果、白い布は荒神神楽祭祀で使用されてきたことが分かった。また「白い木綿布」が使用される東アジアの民間祭祀(長江中流域と朝鮮半島)を調査した結果、それが死霊祭祀で使用されていることが判明した。このことから、白い布を使う荒神神楽祭祀が死霊祭祀を起源に発展したことが判明した。日本の民間神楽は死霊祭祀を起源とすると考えられる。これらは三村泰臣『中国地方民間神楽祭祀の研究』(岩田書院)として刊行した。

研究成果の概要(英文)：In this study, I investigated every cases of white cloth used in Japanese folk ritual "Kagura" especially in the Chugoku region. Then I found out that white cloth has been used in the ritual "Kojin Kagura". What's more I investigated folk rituals in some East Asian fields (along the midstream of Chang Jiang River and the Korea Peninsula), then I understood that white cloth was used in the ritual for the dead or the dead souls. Through those investigation, I came to the conclusion that Kojin Kagura which uses white cloth has developed from the ritual for the dead. The origin of Japanese folk ritual "Kagura" was the ritual for the dead. Then I published "A Study of fork ritual "Kagura" in the Chugoku region" Tokyo Iwatashoin, 2010.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術一般

キーワード：表象文化論、宗教

1. 研究開始当初の背景

日本の民間神楽は神事の歌舞と位置付けられ、もっぱら民俗芸能学と歴史民俗学の両分野から研究が進められてきた(本田安次

『神楽研究』)。牛尾三千夫は中国地方の民間神楽の意味内容を民俗芸能学の分野から解読し、それが祖先信仰と関係深いことを示し

た（牛尾三千夫『神楽と神がかり』）。歴史民俗学の分野では、中世期に遡る民間神楽の資料類が収集/解説され、中国地方の民間神楽が死者や死霊の供養に関わっていたことが指摘されるようになった（岩田勝『神楽源流考』）。民族芸術学の分野から民間神楽の研究はされてこなかった。

中国地方の民間神楽には民族芸術学の対象となる興味深い習慣が残っている。白い木綿布を祭場に飾ったり、舞手はその布を打ち振って神がかったりする不思議なことが現在もおこなわれている（主として備後神楽、備中神楽、大元神楽、等）。同じように白い木綿布を使う習慣は韓国の死霊祭祀の中でも観察される。その代表的事例がコプリ（結解）である。崔吉城は全羅道のコプリに触れ、白い木綿布は死者の恨を解くために使われると指摘している。また京畿道のキルダツクン（裂布）という白い木綿布を裂く祭儀が、死者との別れを象徴するとも指摘している（崔吉城『恨の人類学』他）。この白い木綿布に関する解釈は色々あるにしても、白い木綿布は日韓において死者や死霊の供養と関係する表象物であったと考えられる。

筆者は日本の民間神楽の成立に関する研究のため、中国・長江中流域三角地帯（湖南省・貴州省・重慶市にまたがる山岳地域）の民間祭祀調査を行ってきた。日本の民間神楽のルーツが朝鮮半島よりも中国南方にあると予想したからである（この予想は諏訪春雄『日中比較芸能史』による）。当地の民間祭祀を調査してみると、日本の民間神楽の成立/展開の謎を窺わせる事例が続々と新発見された。

この驚くべき諸事実を国内外で報告し、日本民間神楽を解明するには中国南方の民間祭祀研究が必要不可欠であることを繰り返して主張した。平成 17 年の研究会（京都市立

芸術大学・日本伝統音楽研究センタープロジェクト研究「民俗芸能における神楽の諸相」でこの点を発表した。民間神楽は日本の固有文化だとする先入観がまだ支配的で反発が強かった。しかし平成 19 年の学会（民俗芸能学会）で「長江中流域から見た日本の神楽」を発表した時は、この研究の方向性について理解と関心をいただいた。機がやっと熟した感がある。日本の民間神楽祭祀を解明するための日中韓比較研究をおこないたいと思う。

2. 研究の目的

民間人が暮らしの中で表象してきた芸術の一つに民間神楽がある。この民間神楽の意義を理解するには、演技/衣装/台本/音楽/祭場/観客等を共時/通時的に検討することが必要である。ところで環瀬戸内海の民間神楽には、まだよく認識されていないが、東アジアの表象芸術と重なりあう点が多々観察できる。その一つが「白い木綿布」を使うことである。

この白い布は東アジアの民間祭祀でもよく使用されている。本研究は東アジアの民間祭祀に使われる白い布の、使用分布/使用方法/使用目的を、日中韓の特定領域（長江中流域三角地帯、山東半島、朝鮮半島、環瀬戸内海の四領域）でフィールド調査し、それを比較考察し、日本民間神楽の意義を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

研究計画・方法（要旨）

これまでの民俗芸能調査で筆者の心に残っている表象物が「白い木綿布」である。土家族の死者祭祀「打繞棺」（重慶市酉陽土家族苗族自治県后溪鎮）や死霊祭祀「道場」（同県小河鎮）では、この白い木綿布を複雑多岐

に使用し、1～2 週間にも及ぶ死者/死霊祭祀を行っていた。苗族の死霊祭祀「除霊」（重慶市万盛区興隆鎮）でも白い木綿布を祭場に張り巡らし、大鼓と蘆笙による歌舞を繰り返して死霊の供養を行っていた。日中韓でこの表象物を追究すれば、日本民間神楽の発生とその本質を明らかにすることができるであろう。

東アジアの民間祭祀で使われるこの表象物が、日中韓のどの地域で使用されているか、その分布域をまず文献情報から明確にする。そうした上で東アジア四領域（具体的には長江中流域三角地帯、山東半島、朝鮮半島、環瀬戸内海の四領域）でどのように使用されているか、その使用方法と使用目的をフィールド調査に基づいて正確に記述し（その異同も明らかにする）、比較分析する。

これまでの日本の民間祭祀研究（特に民間神楽研究分野）では、神楽を日本固有の芸能/芸術とみなし、国内の事例を民俗芸能学的あるいは歴史民俗学的に研究する方法に止まっていた。本研究は東アジアの広がりの中で、しかも表象物（芸能や文献資料だけでなく）を主題に、それを民族芸術学的に比較研究する。次の①～④をおこなう。

①環瀬戸内海の白い布

環瀬戸内海の民間神楽で白い布が使われている事例を抽出し、インテンシブなフィールド調査をおこなう。且の十二の舞、周防神舞、山代神楽（以上山口県）、備後の荒神神楽（広島県）、備中神楽（岡山県）、大元神楽（島根県）などである。

②長江中流域三角地帯の白い布

長江中流域三角地帯の民間祭祀は平成 16 年から数地点（重慶市酉陽土家族苗族自治県后溪鎮、同県小河鎮、重慶市万盛区興隆鎮）の民間死者/死霊祭祀を調査研究してきた。しかしこの領域の調査数は不足しているので、

当地全領域で「白い木綿布」を使用する民間祭祀をフィールド調査する。王倩予氏（重慶市・西南大学中文系副教授）の協力を仰ぎ、調査地や調査事項を決定し調査活動を実施する。

③朝鮮半島の白い布

朝鮮半島の民間祭祀（死霊祭）は中部と南部で違いがあるが、できる限り半島全域のフィールド調査をおこなう。尹光鳳氏（広島大学大学院総合科学研究科・教授）の協力を仰ぐ。また金泰均氏（漢南大学文学部・教授）をはじめ、韓国比較民俗学会員の協力を仰ぐことも可能である。

④山東半島の白い布

長江中流域と朝鮮半島を繋ぐ中間地点の山東半島の研究は本研究課題にとって極めて重要なポイントに当たる。しかし日中両国でこの地域の調査報告はなく、具体的計画はできていない。王倩予氏を介し、中国人研究者と協力し調査を実現したい。

本研究完成後は本研究に関する専門書を公刊したいと考えている。

4. 研究成果

（平成 20 年度）

平成 20 年度は環瀬戸内海と中国調査を重点的におこなった。環瀬戸内海調査で有意義であったのは川名津神楽（愛媛県八幡浜市川上町川名津、2008. 04. 19～20.）、備後荒神祭（広島県世羅郡世羅西町黒川、2008. 11. 09.）、備中荒神神楽（岡山県高梁市成羽町麻操、2009. 01. 02.）である。いずれも白い布が死霊供養のためにつかわれていたことが確認できた。他に祝島神舞（2008. 08～09.）、数方庭（2008. 09～10.）、八注連神事（2008. 11. 04.）、大乘神楽（2008. 11. 22.）、等 30 数件に及ぶ神楽調査をおこなった。

中国調査は敦煌莫高窟を中心に浄土図の

調査をした(2008.09.13~21.)。莫高窟で白い布は確認できなかったが、榆林窟(甘粛省安西県)の第25窟南壁の觀無量寿経变(中唐期の作)で白い布が描かれていることを発見した。この調査から、白い布が西方からもたらされたものでなく、東アジア民間祭祀の固有の表象物であったことを確認することができた。また白い布が浄土図に描かれていることから、白い布が生死に深くかかわる表象物であることも確認できた。

(平成21年度)

平成21年度は日本の民間神楽と仏教民俗に見られる「白い布」の調査をおこなった。民間神楽では浦崎神楽(尾道市浦崎町、2009.10.24.)、備後荒神祭(世羅郡世羅町山中福田、2009.11.01.)、藤生神楽(岩国市藤生、2009.11.08.)、備後五行祭(東広島市豊栄町安宿、2009.12.06.)、山ノ神祭(岩国市由宇町清水、2010.01.17.)等の調査をおこなった。仏教民俗では誕生寺練供養(岡山県久米南町、2009.04.19.)、弘法寺練供養(岡山県瀬戸市牛窓、2009.05.05.)、広濟寺鬼来迎(千葉県横芝光町、2009.08.16.)の調査をおこなった。これらの調査で白い布が民間神楽だけでなく、死者を祀る日本の仏教民俗のなかにも深く浸透していることが確認できた。

本研究テーマの成果をふんだんに取り込んだ企画展示「島根の神楽—芸能と祭儀」(島根県立古代出雲歴史博物館、2010.02.05.~04.04.)を開催した。

(平成22年度)

平成22年度は日本の民間祭祀と民間神楽(主として環瀬戸内海)の調査、および朝鮮半島の調査をおこなった。二十五菩薩練供養(山口県周防大島町、2010.04.27.)、大仙供

養田植(広島県庄原市、2010.05.29.)、伊吹島神楽(香川県善通寺市、2010.06.06.)、珍島と濟州島(韓国、2010.09.15~19.)、備後荒神祭(尾道市御調町、2010.09.26.)、湯立神楽(香川県満濃町、2010.10.12.)、五行祭(広島県世羅町上安田、2010.10.23.)、荒神祭(尾道市木ノ庄町市原、2010.10.24.)、井永荒神祭(府中市上下町、2010.11.02.)、五行祭(東広島市豊栄町清武、2010.11.23.)、備後田尻荒神神楽(福山市田尻町、2010.11.28.)、山固め神事(山口県須川、2010.12.05.)、立川神楽(愛媛県喜多郡内子町、2011.03.05.)、小国荒神祭(世羅郡世羅町小国、2011.03.20.)、伊予神楽(愛媛県宇和島市吉田町立間、2011.03.24.)等。

日本宗教学会(東洋大、2010.09.04.)で本研究に関する研究発表をおこなった。また広島県立歴史民俗資料館で特別企画展「祭礼に舞う—広島舞楽・能楽・神楽—」を開催した(2010.10.01.~11.21.)

(結論)

3年間にわたる調査研究により、白い布が民間神楽に多く取り入れられ、死者を祀る日本の民俗のなかにも深く組み込まれていることを確認した。とりわけ中国地方の民間神楽に白い布がよくつかわれていることが明らかになった(三村泰臣『中国地方民間神楽祭祀の研究』岩田書院、2010年)。

この白い布は特別に神がかりの道具としてつかわれていることが確認できた(備中荒神神楽の託宣舞、比婆荒神神楽の土公神迎え/土公神遊び/荒神の舞納め、備後荒神祭の布舞、備後の弓神楽、安芸十二神祇の將軍舞、その他に大元神楽/抜月神楽/大原神職神楽/隠岐島前神楽など)。これらの事例から白い布が神的力を顕現させる重要装置としてつかわれていることが分かった。

また白い布が死霊祭祀と関係深い神楽の

中で使用されていることも判明した。死霊祭祀としておこなわれていた備後荒神祭の妙見舞で白い布がつかわれた。隠岐の霊祭神楽の八重注連神楽でも白い布が使われていた。備後の死霊供養のためおこなわれていた神楽能（「松ノ能」など）では白い布をつかい死霊を清めていたという記録がある。これらから白い布は荒神神楽の先駆的神楽であった「浄土神楽」（死霊を浮かべて浄土を送る神楽）で使われていたことが明らかになった（三村泰臣「中国地方民間神楽における「白い布」、広島工業大学紀要 研究編、第45巻」）。

また調査結果を分析すると、民間神楽でつかわれる白い布が、①神的力量を顕現させる表象（死霊を清めるためなど）、②この世とあの世を結ぶ表象物（亡者を浄土へ送るなど）として使用されていることが分かった（①をA型、②をB型という）。

この視点から東アジアの民間祭祀を眺めると、韓国のクツで使われる白い布（シッキムツツの「コブリ」、江陵端午祭の「將軍クツ」「船の唄クツ」、西海岸の「豊漁祭」、慶尚南道の「裂布」など）は、A型とB型の両方が混在していた。また長江中流域三角地帯の民間祭祀（土家族の「打撓棺」「道場」、苗族の「除霊」）では、A型とB型がきちんと区別してつかわれていることが分かった。この相違は、白い布を使う民間祭祀の源流が朝鮮半島より長江中流域にあると考えさせる（三村泰臣「神楽における「白い布」—中国地方の民間神楽を中心に—」民族藝術、Vol.27）。日本の民間神楽は死霊祭祀を基に展開し、中国南方（長江中流域）の影響を受け成立した可能性が考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 14 件）

①三村泰臣、瀬戸内と朝鮮半島の民間祭祀の

連携・協働に関する実証的比較研究、福武学術文化振興財団、2009、42-46.

②三村泰臣、環瀬戸内海と中韓の民間祭祀に関する比較研究②、三菱財団、2009、396-398.

③三村泰臣、長江中流域と環瀬戸内海海域における民間神楽祭祀の実証的比較研究、JFE21世紀財団、2009、19-26.

④三村泰臣、中国地方の神楽の諸相、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター報告書、2009、17-32.

⑤三村泰臣、東アジア民間祭祀の「藁人形」、民族藝術、査読有、Vol.25、2009、135-141.

⑥三村泰臣、「広島神楽」について、広島民俗、72号、2009、1-13.

⑦三村泰臣、神楽の天蓋について、中国地方各地の神楽比較研究（島根県古代文化センター）、2009、17-30.

⑧三村泰臣、荒平の系譜、島根の神楽—芸能と祭儀、島根県古代歴史博物館、2010、81-89.

⑨三村泰臣、日本民間神楽の「白い布」、宗教研究、査読有、83巻4号、2010、1590-1591.

⑩三村泰臣、広島の神楽遺産、広島民俗、2010、73号、1-14.

⑪三村泰臣、広島の神楽—歴史と特徴、祭礼に舞う（広島県立歴史民俗資料館）、2010、49-55.

⑫三村泰臣、中国地方民間神楽における「白い布」、広島工業大学紀要（研究編）、45巻、2011、271-279.

⑬三村泰臣、日本民間神楽における祭場の意義—神殿と天蓋を中心に—、宗教研究、査読有、84巻4号、2011、453-454.

⑭三村泰臣、神楽における「白い布」—中国地方の民間神楽を中心に—、民族藝術、査読有、2011、Vol.27、198-205.

〔学会発表〕（計 9 件）

①東亜的「藁人偶」興「白木綿布」、台湾民

- 族藝術国際学術研究会（仏光大学）2008. 04.
- ②神楽の天蓋、島根県古代文化センター「中国地方各地に神楽比較研究」第4回検討会（島根県古代歴史博物館）、2008. 04.
- ③神楽の中の鬼と蛇、生き物文化誌学会（安芸高田市）、2008. 10.
- ④瀬戸内と朝鮮半島の民間神楽祭祀の実証的比較研究、福武学術文化振興財団第2回瀬戸内海文化助成発表大会（高松市）、2009. 05.
- ⑤日本民間神楽の「白い布」、日本宗教学会第68回学術大会（京都大学）、2009. 09.
- ⑥広島的神楽遺産、広島民俗学会第74回研究会（広島市）、2009. 09.
- ⑦日本民間神楽における祭場の意義—神殿と天蓋を中心に、日本宗教学会第69回学術大会（東洋大学）、2010. 09.
- ⑧安芸十二神祇の特徴、島根の神楽展—芸能と祭儀（出雲市）、2010. 02.
- ⑨広島的神楽—歴史と特徴、広島県歴史民俗資料館特別企画展「祭礼に舞う—広島舞楽・能楽・神楽」（広島県歴史民俗資料館）、2010. 10.

〔図書〕（計 1 件）

- ①三村泰臣、中国地方民間神楽祭祀の研究、岩田書院、2010、356

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三村 泰臣 (MIMURA YASUOMI)

広島工業大学・環境学部・教授

研究者番号：60289262